

# 会派調査(研修)報告書

NO.

平成 29年 **12**月 **5**日

胎内市議会議長

森田幸衛様

森本 将司 (報告者) 会派名 政和会

代表者名 渡辺 俊

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 平成 29年 10月 25日	調査・研修 場所	10月 25日 榑香川クリエイティブプロダクツ
	至 平成 29年 10月 27日		香川県仲多度津町青木 114番地 1
	泊 3日 (3日間)		10月 26日 (一社)尾道観光協会
			広島県尾道市東御所町 1番地 20
調査・研修 事項	10月 25日 たどつオリーブ生産組合：オリーブ生産による地域振興につ		
	いて、生産組合の設立の経緯、事業内容、組織体制について		
	10月 26日 尾道観光協会：尾道観光協会の観光振興事業について、独自		
	に実施する収益事業の概要について		
調査・研修 出席者(参加者)	政和会 渡辺 俊 議員, 森田 幸衛 議員, 天木 義人 議員, 小野 徳重 議員		
	森本 将司 議員		
	公明党 渡辺 栄六 議員		
	胎政会 佐藤 武志 議員		
相手方(対応者)	10月 25日 たどつオリーブ生産組合 前事務局長 渡邊 雅春		
	10月 26日 尾道観光協会 専務理事 岡田 豊明		
	事務次長 壇上 和伸		

## 調査の結果または概要

10月25日 たどつオリーブ生産組合：多度津町は香川県の中讃地区に位置する人口2万4千人の海と山に囲まれた町である。かつては「赤いダイヤ」と呼ばれた「デラウェア」の産地であったが、近年では高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増加傾向にあった。そこで考えられたのがオリーブの栽培であった。オリーブは同じく瀬戸内海に位置する小豆島で特産品として古くから栽培されており、環境的にも多度津町が適していることも大きな理由であった。平成21年11月より香川県農協の部会として27名で40アールの耕作放棄地に386本のオリーブの木を植栽するところからスタートし、平成25年度末には6.6haに3880本を植えるまでになった。平成26年からは加工販売も始め、オリーブ400kgを新漬け、2800kgをオイルに加工した。平成27年には新漬けを900kg、オイルを6500kgと生産量を増加させた。しかしながらそれまで加工委託をしていた小豆島の業者では27年度の実産量が限界とのことから、政府ファンドと組合の共同出資で株式会社を作り、加工場を建設することで自前での加工、販売を実現させた。今後も生産量の増やしていくとともに販路の拡大をおこない収益の安定化を目指すとのことである。

10月26日 尾道観光協会：古くから瀬戸内海の要所として人々の交流が盛んな土地であったが、現在の年間観光客500万人という一大観光地となったきっかけは大林宣彦監督の映画の舞台となったことであった。その後も映画やアニメの舞台になる事で安定的に観光客が訪れている。最近では自転車ブームもあり、美しいしまなみ海道の景色を楽しむ観光客の為にレンタサイクルにも力を入れている。その他、市営駐車場の説明も受けた。

## 調査の所見・感想

たどつオリーブ生産組合：瀬戸内海では小豆島がオリーブの生産で成功していることもあり、環境的に近い多度津町でのオリーブ生産は間違っていないと思う。しかしながら事業の開始から収穫まで4年ほどかかっており、最近になってようやく形になってきたというところである。事業の規模としてもそれほど大きいとも言えず、今後の生産量や需用の拡大が課題のように思う。

尾道観光協会：毎年のように安定して観光客を500万人集められる街並みや景観にただただ感服する。映画などのロケーションを訪ねる観光客が後を絶たないのも、瀬戸内海の美しい景色があつてのものではある。宣伝広告費もかけなくても観光客が訪れる恵まれた環境であるが、最近ではサイクリングに力を入れるなど、それまでとは違った客層の取り込みも行っている。観光地としては当市とは比べるまでもないが、あるものを活用して多面的に働きかけていくことはこの観光地においても求められていることであると思う。胎内市も独自の魅力を持っているのでしっかりと働きかけを今以上に行っていくべきと感じた。